

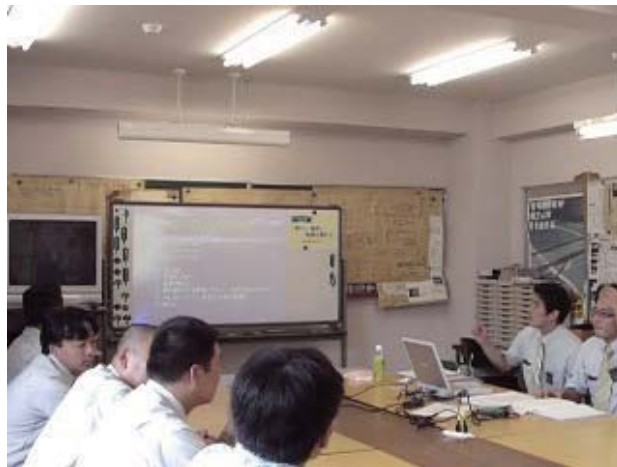
事故のグループ討議手法

【概要】

事故のグループ討議手法を開発しました。これは、事故やヒヤリハット事象などの原因や対策について、現場社員がグループ討議するためのやり方を示したものです。これは、既存の事故分析手法を運転現場で試行した結果、明らかになった問題を考慮して開発しました。討議は、事故のイメージづくり、原因追究、対策考案の3つの大きな流れから構成されます。

【特徴】

作成したマニュアルに沿って実施することにより、事故の原因・対策に関するグループ討議の効率的に、かつ簡便に進めることができます。このようなグループ討議を通じて現場社員の安全意識の高揚、各自の危険情報や工夫、経験などの情報共有が実現できます。



【用途】

運転現場、施設・電気関係現場、工場などの安全活動として、用いることができます。また、現場社員だけでなく、中間管理者層の安全マネジメント訓練として活用することができます。

試行で明らかになった現行手法の問題

- | |
|----------------------------|
| ① 推定される事故原因が「人」要因に偏る |
| ② 実行できない対策や抽象的な対策しか考案されない |
| ③ 自主的な対策ではなく機器購入や制度改正対策に偏る |

振り返り会で明らかになった現行手法の問題

- | |
|-----------------------|
| ① 討議内容のフィードバックや共有化不足 |
| ② 経験談があまり語れなかった |
| ③ 議論が中途半端で終わったような不十分感 |

